



Title	国際保健を学べる大学・大学院：琉球大学大学院保健学科研究
Author(s)	小林, 潤
Citation	目で見るWHO. 2024, 87, p. 18-19
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/95305
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

国際保健を学べる大学・大学院



琉球大学・大学院保健学研究科／医学部保健学科 研究科長

小林 潤

難民支援・母子保健等の草の根活動から学校保健を中心に政策策定・実施の支援の為にシンクタンクを運営し、実践と研究を両輪に活動を展開している。

世界の実務家と共に学ぶ

琉球大学大学院保健学研究科は2015年にOkinawa Global Health Sciences Courseを開設しました。アジア・太平洋州・アフリカから広く大学院生を受け入れ、すでに12人の卒業生を輩出しています。卒業生の多くは各国の行政官や研究者となって活躍しています。保健学研究科に入学した日本人学生は、これらの留学生と交流をしながら共に学びます。また2021年にJICA開発大学院連携プログラムに沖縄で初めて登録されました。JICA開発大学院連携プログラムでは日本の開発の歴史をJICA開発大学院で学び、受け入れ大学では各地域や各分野の開発の歴史を学びます。当研究科では、沖縄の公衆衛生の歴史と日本の

ODA（政府開発援助）の経験を学べるカリキュラムになっています。琉球大学とJICA沖縄センターは2017年に連携覚書を締結し、JICA開発大学院連携プログラムの他、共同で短期研修を年間8本以上運営しています。これは母子保健、感染症対策、生活習慣病対策、公衆衛生計画等の課題が設定されており、日本人を含む大学院生は希望に応じて参加が可能になっています。全てのスケジュールに参加し発表まで行くとJICAより終了証が授与されます。このコースでは沖縄のそれぞれの課題の経験が紹介され、それをもとに世界の実務家の間で議論が展開され、まさにグローバル（グローバル＋ローカル）に学ぶことができる内容です。当初多くの学生は国際地域保健分野に所属してこのプログラムに参加して

いましたが、保健学研究科にある他の様々な分野に所属して研究を実施しプログラムに参加する留学生の受け入れが始まっています。

低所得国のフィールドでの研究と実践を学ぶ

フィリピン大学公衆衛生学部、インドネシア国マタラム大学医学部、アイルランガ大学医学部、チェンマイ大学看護学部、米国グアム大学保健学部と、教育研究協定を結び、共同研究や学生交流を活発に行っています。またラオス国の保健セクターとは1990年代からの協力関係を継続しており、近年ではラオス保健省熱帯公衆衛生研究所との共同研究を活発に進めています。

国際地域保健学教室では、特にフィリピン、インドネシア、ラオス、太平洋島嶼国での研究成果を得ています。教室に所属する多くの大学院生は、研究・教育協定のもと、これらの国で現地研究者の協力のもと実際にフィールド調査を行い、研究論文を作成しています。現在開発事業だけでなく、海外での研究実施は当事国のオーナーシップを尊重することが求められていると思います。教室では、現地の研究機関との協定のもと研究も必ず双方の合意形成のもと実施します。また、双方の倫理委員会の許可を得ることは当然のこと、研究結果も単に修士・博士論文を作成することだけでなく、研究結果の現地への還元と国際学術誌での公開に努めています。修士課程の場合、これら



写真1 コロナのなか無事に研究をやりとげて卒業したベナンからの留学生クレドさん

のアレンジを全て自分で行うことはかなり難しいと考えており、教室の実施しているプロジェクトの中で現地協力機関の支援を受けて実施できる体制を整えています。特に協定校の教授レベルの支援だけでなく、実際にフィールドにともに出かけて指導できるスタッフの協力を得ています。本研究科卒業生でフィリピン大学公衆衛生学部准教授に就任したクリスタル・エストラダ博士、ラオス国立大学教育学部講師のケッサナ・カンヤサン博士等は、保健学研究科の後輩の研究も積極的にサポートしてくれています。

島嶼保健を学ぶ

保健学研究科はアジア・太平洋地域のアイランドヘルス教育研究拠点になることを目指して現在事業を展開しています。沖縄を含むアジア・太平洋地域の島嶼は美しい自然と独特の文化による豊富な観光資源をもち急速に開発がすすんできました。一方、格差は拡大し、貧困による健康への影響は大きなものがあります。十代の妊娠や青少年の非行・メンタルヘルスの問題は島嶼地域の共通した課題です。またこの影には太平洋各地にある軍事基地の影響も見逃せません。また大陸文化の侵略も、健康的な食文化を脅かし続けています。肥満の課題で典型例として用いられるのも太平洋島嶼国です。さらに地球温暖化による影響として、海面上昇は直接島嶼住民の生活に危機感を生じさせメンタルヘルスにも影響していると言えます。沖縄はリソースが限られるなかで熱帯病の根絶、離島保健医療の整備のように素晴らしい成果があります。一方、上述のように現在進行形のアジア・太平洋の島嶼地域との共通な課題を抱えています。これらの経験と課題を日本でリアルに学べるのも沖縄の特徴と言えるでしょう。



写真2 国際保健は現地の生活を知ることから：ラオス草の根プロジェクトでの僻地農村での保健学科学生の宿泊体験



写真3 コロナ収束後再開されたJICA青年研修：太平洋島嶼国から沖縄に学校保健での栄養対策を学びに来た7人



写真4 「何回でも村に通い見て聞いて感じる」これを科学的に分析し世界と対比させて論文にする

ホームページリンク

1. 琉球大学大学院保健学研究科／医学部保健学科
<https://www.ryudai-igakubu-hokengakka.com/>
2. 同国際地域保健学教室 <https://okinawaghealth.com/>
3. 国際学校保健コンソーシアム <https://schoolhealth.asia/>

(注) この記事は2025年3月12日にアップデートされました。